Title:sinpou4660.ec7 Page:1 Date: 2013/02/27 Wed 09:33:56

教団新報

定　価　1部140円（本体133円〒共200円）
予約購読料　1年分　〒共　5,000円
紙代のみ　3,500円
振替00140－9－145275
本紙を購読ご希望の方は、前金をそえて、お近くのキリスト教書店へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所　日本基督教団
169-0051　東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内　電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人　内藤留幸
編集主筆　竹澤知代志
印刷所　株式会社きかんし

メッセージ

使徒言行録18章9～11節

わたしの民が大勢いる

上田光正

励ましの言葉

コリント伝道で失意の中にいたパウロは、主からの御言葉によって勇気づけられました。

「ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。『恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ』。」（使徒言行録18・9～11）

「この町にはわたしの民が大勢いる」―この言葉は、あらゆる説教者の書斎の壁に大きく記されるべきだ、とある人が言っています。なぜなら、この励ましの御言葉がなかったなら、コリント教会は生まれなかったに違いないからです。この御言葉は、今日の私どもにも非常に多くのことを語りかけています。

コリントの教会は、原始教会の中でも最も規模の大きい、そして、最も活発な教会となりました。私どもはパウロが書いたコリントの信徒への二つの手紙から、この教会の内部にも様々な問題があった、ということばかり語りたがります。しかし、むしろ、この教会の存在の意義や周囲に与えた影響の大きさをよく考えなければ、見方が偏ります。パウロはこの教会を愛し、この教会に宛てて、実に四通もの手紙を書いているのです。

コリントの町は、アテネとは比べものにもならないほどのマンモス都市でした。「ギリシャの星」と呼ばれ、繁栄を極めていました。しかし、この町は同時に、様々な悪徳と虚栄の町としても、悪名が高かったのです。

パウロがこの町に伝道に来たのは、アテネ伝道が失敗したからのようです。そこでパウロ自身が受けたダメージも、決して小さくはなかったようです。あの気の強いパウロが、「そちらに行ったとき、わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でした。」（一コリント2・3）と言っているのです。そういうパウロの心細い限りの精神状態に対して、他方、コリントの町は、「神など要らない」という世俗的精神に漲（みなぎ）り溢れていました。それは、今日の私どもの周囲にも満ちているものです。神がいてもいなくても、時間は同じように過ぎて行き、社会では同じように善いことも悪いことも起こり、人間は同じように年を取って死ぬ。神を慕い求める人は一人もいない。お前さんがどんなに神の言葉を語っても、この町では虚しいだろう。きっとお前さんはそのことを知るようになる。

このような世俗的精神は、どうかすると私どもキリスト者の心の中にも忍び込み、私どもを無力感や絶望感に陥れます。この時も、それはまるで高くそそり立つ断崖絶壁のようにパウロの前に立ちはだかっていたのです。

パウロの覚悟

パウロは余程の覚悟を決めたに違いありません。その決意の程を述べた言葉が、次の有名な聖句です。

「十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。」（一コリント1・18）

彼はこの時、もしコリント伝道に失敗したら、ヨーロッパ伝道全体が失敗したことになる、とさえ思っていたに違いありません。

果たして、パウロはこの町でも、ユダヤ人たちの反対を受け、会堂から追い出されました。幸いにも、ティティオ・ユストという人が自分の家を開放してくれることになりました。

ところが、ユストの家は、こともあろうに、ユダヤ人会堂のすぐ隣にあったのです。これこそ神のご計画とも言えますが、同時に、パウロたちは非常に厳しい戦いのるつぼの中に投げ込まれたことになります。パウロはまさに背水の陣を敷き、連日のように祈り、御言葉に専心し、日曜日には切々と、訴えるような気持ちで御言葉を語り続けました。

この世俗的な町コリントの人々に、福音をそのままぶつけるという果敢な戦いが続きました。

見えない神の民

そんなある夜のことでした。主は幻の中でパウロに、冒頭の御言葉をお語りになったのです。

「この町には、わたしの民が大勢いる」

パウロはこの御言葉を、調子のよい、伝道の上向きの時に、聴いたのでしょうか。どうも、そのようには思えません。むしろ、パウロの気持ちからすれば、全く正反対だったのではないでしょうか。「恐れるな」ということは、パウロが依然として恐れに満ち、いつ何時ユダヤ人が彼を襲って来るかも知れない、という戦々恐々の日々を過ごしていたからです。「語り続けよ」というのも、彼の腰は必ずしも据わっていなかったからでありましょう。語っても語っても無駄であるように思われるとき、私どもは御言葉そのものに対して、しばしば虚しさや絶望感を抱きそうになります。しかし主は、「この町にはわたしの民が大勢いる。だから、語り続けよ」とおっしゃるのです。なぜ大勢いると言えるのか。理由は分かりません。ただ「大勢いる」、と言われるから、信ずるより他にありません。主が預言者エリヤに「わたしはイスラエルに七千人を残す。」（列王上19・18）と言われたときにも、エリヤの目にはこの七千人の信仰者は、全く見えません。パウロの場合、教会に来ている人々は、恐らくこの私どもの礼拝の半分にも満たなかったのでありましょう。しかし、この目に見えないコリントの人々のことを、主は、「わたしの民」と呼ばれます。そして、「わたしの民は大勢いる」とおっしゃるのです。

この時、パウロは気が付いたのです。伝道をしているのは、この自分ではなくて、神である、と。神が自分の中で共におられて、御自分の民を捜しておられるのだ、と。従って、伝道者の仕事は、ただこの大勢いるはずの神の民を掘り起こし、しっかりした信仰を持って貰うよう、ひたすら福音を語ることしかない、と。

テルトゥリアーヌスという教会教父は、「人の魂は生まれつきキリスト教的である」と言っています。どんな人でも、やはり死ぬ時にはキリスト教の信仰を持って死にたいのです。私どもは、そう確信して差し支えありません。その人々に福音を宣べ伝えることが、私どもの光栄ある務めです。

それ以来、パウロは「一年六ヶ月の間ここに留まって、人々に神の言葉を教えた」、とあります。「留まって」とは、「腰を据えて」、という意味です。そして、実に一年半という長い期間をここで伝道することになったのです。このようにして、コリントの教会が建てられたのでした。

（美竹教会牧師）

美竹教会（東京教区西南支区、東京都渋谷区渋谷）

荒野の声

▼中島敦の「名人伝」、掌編の終わりの方を、少しだけ引用する。「至為は為す無く、至言は言を去り、至射は射ることなし」。▼機織（はたおり）台に潜り、眼の前を往来する機躡（まねき）を決して瞬かずに見詰め、また軒に吊した虱を飽かず見詰めるというような修行を経て、名人の域に達した主人公紀昌は、単なる道具に過ぎない弓矢を最早必要とはしなくなる。彼は眼力だけで飛ぶ鳥を落とすことが出来る。「賢い渡り鳥共は彼の家の上空を通らなくなった」。▼遂には、「ある日老いたる紀昌が知人の許に招かれて行ったところ、その家で一つの器具を見た。確かに見憶えのある道具だが、どうしてもその名前が思出せぬし、その用途も思い当らない。老人はその家の主人に尋ねた。それは何と呼ぶ品物で、また何に用いるのかと」。▼そして、末尾の部分、「その後当分の間、邯鄲（かんたん）の都では、画家は絵筆を隠し、楽人は瑟（しつ）の絃を断ち、工匠は規矩（きく）を手にするのを恥じたということである」。▼現代の教会は、紀昌のような名人で溢れているのだろうか。教会を会場にし様々な社会活動や文化活動が行われ、政治的な集会さえ持たれる。それは良いとしても、聖書を開かない集会が増え、聖書を手にしないで説教する説教名人が現れているのではないか。

Title:sinpou4660.ec7 Page:2 Date: 2013/02/27 Wed 09:34:12

クリスマス献金の送金先決定

アイヌ奨学金は07年度で終了

教育委員会

第35総会期第七回教育委員会が九月二日（火）～三日（水）の両日、教団四階会議室にて委員全員の出席をもって開催された。

主な報告事項としては先ず、七月三一日～八月八日まで開催された「ユースミッション2008」の報告が行われた。

台湾長老教会から七名の青年の参加があったが、日本側は五名であった。今後の日本側の主催の形態と青年の招集に課題が残る。

次に、プログラム小委員会からは八月十八日～十九日に静岡一番町教会で行われた、二〇〇九年度の教会学校プログラム作成の報告を受けた。

「教師の友」の主題と聖書箇所の選定は教育委員会が責任を負う。その責任の重さを痛感しつつ、執筆者は「教師の友」編集委員会が選考するので、教育委員会側の意図を正確に伝える事の重要さを確認した。

協議事項としては第一に二〇〇八年度のクリスマス献金の送金先を決定した。海外は「アジアキリスト教教育基金（ACEF）」（バングラデシュに寺子屋を贈る運動）、「四川大地震被災地の子どもたちへ」、国内は「若草園」（養護施設）と「ひかりの家学園」（幼児発達支援施設）の二施設である。

アイヌ奨学金は二〇〇七年度をもって終了を確認した。特定の施設に長期間献金することは、教育委員会の方針にそぐわないと判断したためである。

昨年度から開始した、教会学校応援セットを更に充実したく願っている。

キリスト教教育主事関連では、教団新報に掲載予定の認定試験の公告内容を検討、決定した。聖和大学と関西学院大学の合併を背景として、聖和大学から教育委員会へ要望が出されている件についても話し合われたが、キリスト教教育主事の会からは要望や質問のないことや、現行規則で対応できる事を併せて考慮すると、学校内部の問題と判断せざるを得ないとの結論に達した。

なお、総幹事の下に、「キリスト教教育主事に関わる検討会」が設置され、現教育委員の岸憲秀、加藤誠の両名がメンバーに入ることが承認された。

（加藤誠報）

多岐にわたる課題に
委員全員で取り組んだ２年間

「宣教基本方策」「宣教基礎理論」の問題点を確認

宣教研究所委員会

九月四日～五日に第35総会期第七回宣教研究所委員会が開催された。

事務局より「日本基督教団史資料集」全五巻について報告がなされた。

在庫については第一巻以下それぞれ二六冊、九八冊、一九九冊、二一二冊、一一一冊となっており、現在七百万円近い会計残が出ている。

この会計残の扱いについて協議した結果、収入の中に宣教研究第一資金から八百万円の繰り入れがあったため、二〇〇八年度末の時点における会計残を宣教研究第一資金に入れることを承認した。

その時点でこの資料集の会計を閉じ、在庫は教団出版局に移譲する。

今期委員会は「宣教基礎理論」の策定に向けて歩み出したが、新たな宣教基礎理論を作成するために、現行の「宣教基本方策」（一九六一年）と「宣教基礎理論」（一九六三年）の問題点の確認を行った。

その全文は十二月発行予定の「宣研だより」に譲るので是非一読願うとして、要点は以下のようである。

現行の「宣教基本方策」と「宣教基礎理論」の問題点は「教会の体質改善」を目指したが、その際教会がそもそも主イエス・キリストの体であるとの聖書理解が十分に踏まえられていなかった。

さらには「和解」の理解も、聖書が伝える神と人との和解を充分踏まえることなく、ただちに人や社会に向かっての和解の姿勢のみが打ち出されている点も問題として指摘された。

これらの問題点を『宣教基本方策』『宣教基礎理論』に関する問題提起」としてまとめると共に、今期委員会が目指した新たな宣教基礎理論の考え方を「宣教基礎理論作成のための共通理解」としてまとめたので、次期委員会も『宣教基礎理論』作成に向けて歩みを継続してもらいたいと願っている。

次期委員会へのその他の引き継ぎ事項としては、「万博・東神大・教師検定問題年表」改訂のためのプロジェクトの継続も挙げられた。

（長谷川洋介報）

「宣教基礎理論」の策定に向けて歩み続けた２年間

再建進む被災地再度問安

募金も更に推進

「能登半島地震」被災教会会堂等再建支援委員会

第六回「能登半島地震」被災教会会堂等再建支援委員会（以下、委員会）が、九月八日～九日に、被災教区・中部教区石川地区恵泉教会で開催された。

今回の委員会は、被災教区の中部教区能登半島地震被災教会再建委員会に陪席させていただくとともに、再建途上にある教会、伝道所の現地を問安し、その状況を見せて貰った。

陪席した中部教区の再建委員会では、それぞれの被災教会・伝道所の会堂等の再建について、改築、補修計画の進捗状況及び予算・資金、経費の状況について、それぞれの教会から報告された。それを受けて相互に情報交換、意見交換、協議がなされていて、再建への意欲を強く感じさせられた。

委員会は、前回（第五回）委員会記録及び教団総会に提出する委員会報告を確認後、事務局から、まず募金の状況及び会計の報告を受けた。

募金の状況は、九月二日現在で九一、七四七、九〇七円であり、中部教区からの教区総会決議に基づく大口の献金もあり、かなり推進されている。

一方、再建支援金は三、〇〇〇万円強支出され、今回の委員会で承認した、三、一〇〇万円強を加えれば、再建への動きが会計的にも推進されている。

続いて委員会に陪席された、高橋潤中部教区議長及び小宮山剛中部教区能登半島地震被災教会再建委員長と共に中部教区の再建委員会を陪席した中で受けた感想、問題点等について話し合った。また、新たに会堂等の改築、補修等に伴う支援金の申請について、委員会はこれを承認した。

以後、協議に入り、今回が今総会期最後の委員会となるので教団総会に向けて当委員会の継続を申しいれるとともに、支援アピールを発行することとし、その内容について協議決定した。

翌九日は、現地問安として羽咋教会・富来伝道所の改築現場、及び、輪島教会会堂補修と牧師館改築の現場を訪れた。

輪島教会では教会員の方と親しく懇談の時を持ち、再建の困難さとともに、これからの希望について話し合った。

（津村正敏報）

輪島教会会堂補修と牧師館改築の工事現場

教師検定試験公告

二〇〇九年春季教師検定試験を左記の要領で行います。

一、受験要綱と受験願書の提出期限

受験要綱と教団指定の願書用紙は一六〇円切手を同封し、正教師受験志願者か補教師（A、B、Cコースの別も）受験志願者かを明記した上、封書でお申し込みください。願書と必要書類を整えて、受験料とともに所属教区に提出してください。なお、正教師受験志願者は「教師検定規則第十二条②」によるものに限ります。

①教区締切　十一月十七日（月）

（教区により締切が異なりますので、教区事務所に確認してください）

②教団締切　十二月八日（月）

（各教区から教師検定委員会に提出する際の締切です）

＊受験料は正教師一万三千円、補教師一万円

二、補教師について

①「説教」「釈義」の課題テキスト

旧約　イザヤ書　五五章八～十一節

新約　フィリピの信徒への手紙　四章二～七節

②コースによって「説教」「釈義」の提出内容が異なりますので、必ず受験要綱でご確認下さい。

③補教師（CⅢコース）の牧会学の課題

『牧会とは何か』について論述してください。

三、正教師について

受験志願者は、直接教師検定委員会までお問い合わせください。

四、提出物（説教、釈義、牧会学）締切について

当委員会への提出締切日、二〇〇八年十二月十五日（金）必着です。

五、学科試験と面接について

学科試験は二〇〇九年三月三日（火）、面接は三月四日（水）、三月五日（木）に東京・日本キリスト教会館ビル内（教団会議室）にて実施します。詳細は受験志願者に通知いたします。不明な点は直接、当委員会へお問い合せください。

二〇〇八年十月一日

日本基督教団教師検定委員会

〒一六九－〇〇五一

東京都新宿区西早稲田二－三－十八－三十一

電話（〇三）三二〇二－〇五四六

Title:sinpou4660.ec7 Page:3 Date: 2013/02/27 Wed 09:34:36

継続課題を検討、次期へ申し送る

第5回在日韓国朝鮮人連帯特設委員会

第五回在日韓国朝鮮人連帯特設委員会が九月一日教団会議室で開催された。

前回議事録を修正して承認した後、委員が参加した常議員会、全国キリスト教学校人権教育セミナー、外登法問題国際シンポジウムの報告を受けた。野村和正幹事から、李仁夏牧師の逝去に際して弔電を送ったこと、教団議長と在日大韓基督教会総会長との連名で出された「平和メッセージ」について報告があった。

また教団総会への委員会報告の評価と展望の部分について確認した。在日大韓基督教会宣教100周年記念事業への協力を教区議長宛再度アピールすることとした。

任期を終えるにあたって当委員会の継続課題を検討し、次の事項を次期委員会へ申し送ることとした。

◎在日大韓基督教会の歴史と現状を学ぶ。＊外キ協ブックレット「歴史をひらくとき2008－共に生きる世界」の学習を薦める。◎宣教協約の学びを深める。◎在日大韓基督教会が取り組んでいる人権問題に学ぶ。◎日本基督教団と在日大韓基督教会との宣教協議会への参加及び同宣教協力委員会との協力。◎外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会（外キ協）活動への参加・協力。＊「外国人住民基本法」の制定を求める国会請願署名用紙の各教区総会参加者への配布。＊「外国人指紋制度の中止を求める署名」用紙の各教区総会参加者への配布。◎キリスト教学校人権教育セミナー等関係するセミナー・集会への参加。◎「平和メッセージ」の両教会協力による作成。◎二月八日（協約締結日）を「宣教協約の日」（仮称）とするように求めていく。◎「共同讃美歌」編纂、及び両教会の歴史編纂の可能性を探る。◎教団として十年間取り組んだ旧日本軍「慰安婦」支援献金募金の経緯をまとめる。◎次世代育成のために「多民族・多文化共生キリスト者青年現場研修プログラム」への参加を呼びかける。

（土井桂子報）

たくさんの継続課題を抱えている委員会

宣教師の辞任・後任を協議

第3回台湾協約委員会

第35総会期第三回台湾協約委員会が八月二七日正午から、大阪の浪花教会で開催された。

主な議事は、次の通り。

二〇〇七年度委員会会計決算及び二〇〇八年度委員会会計予算に関する件は、資料を確認して承認。

『台湾教会通信』は、かつて四四号までが合本として発行されたが、その後に出された六一号までを「合本補遺」として製本することについて協議。資料が整い次第作業に入ることを承認した。

台湾高雄日本語教会付属めぐみ幼稚園に派遣されている宣教師から任期満了〈二〇〇九年三月〉前の辞任の希望が伝えられた件については、詳細な報告を受け、当委員会に世界宣教委員会実務会から意見を求められたため慎重に協議した。その結果、当委員会としては以下のように世界宣教委員会実務会に伝えることとした。①同宣教師の辞任はやむをえないと判断し、早急の帰国が望ましい。②後任については、世界宣教委員会が責任を取れる体制が整うまでは、派遣できない。③教団から高雄日本語教会役員会と台湾基督長老教会を早急に訪問し、これまでの経緯を丁寧に説明する必要がある。以上を、世界宣教委員会に提出することとした。

来年日本において開催予定の第十二回PCTとの教会協議会に関する件は、日程としてこれまで十一月に開催されてきたが、来年は日本宣教一五〇周年記念行事と重なるため、二〇〇九年四月二一？二三日または七月二一？二三日を設定し、会場を大阪台湾教会をすることを決めた。テーマは決定にいたらなかったが、教団側の参加者は信徒が過半数になるように各教区に要請することとした。また、この協議会の開催までには委員会組織の改変期にあたるため、今期の台湾協約委員を実行委員として今後の準備を進めることを次期台湾協約委員会に申し送ることとした。その第一回協議会準備実行委員会は二〇〇八年十一月七日に会津坂下教会にて開催される。ここでテーマなどが決定され、年内に協議会の案内を出す予定である。委員会後に協議会会場となる大阪台湾教会を訪問した。

（高橋真人報）

猛暑続く8月の大阪、浪花教会を会場に

今総会期委員会活動を振り返る

第5回障害者差別問題小委員会

九月八～九日、教団会議室に於いて今総会期最後となる第五回障害者差別問題小委員会が開催された。

主な議事は、今総会期における委員会活動を振り返りつつ、次期への申し送り事項を挙げることである。

今期の委員会活動は、主に三つあげられる。

第一に、委員会の名称を『『障がい』を考える委員会』に変更する提案をしたことである。これは、この委員会が、差別問題だけに留まらず障がいを持つ苦しみの根底にある心や魂の配慮を豊かにできるように願い、すべての者がイエス・キリストを主とあがめる教会となることを望むという思いを含んでいる。

第二に、情報発信と情報収集の手段として当委員会のホームページを開設したことである。まだまだ不十分な所はあるにせよ、分かち合うためのまず一歩を踏み出せたと思う。今後、アンケートなどを有効に行い、さらに内容が豊かになることを願っている。

第三に、今年度は四年ぶりに全国交流会を開催することができたことである。特別な講師を立てるのではなく、障がいを持って歩んでいる人たち自身に発言していただき、それを分かち合うことができ、良き交流の場が与えられたと思う。

これらの活動を受けて、次期委員会へ以下のことを申し送ることとした。

①障がいについての理解をさらに深める。②「障がい」を考える全国交流会を行うための献金を継続する。③情報発信と情報収集＊ホームページの継続と充実。＊「教区への「障がい」に関する取り組み」アンケートの実施。④知的障がいをはじめ様々な障がいにも目を向けてゆく。⑤高齢者問題にも目を向けてゆく。

（加藤幹夫報）

「宣教師内規」文言変更案確定

第7回宣教師人事委員会

第35総会期第七回宣教師人事委員会が去る九月五日（金）午後二時から五時まで教団会議室において行なわれた。出席者は委員五名中四名と陪席者一名及び事務局からの二名であった。

まず前回記録案を読み上げ字句を訂正した後、これを承認した。

次に第五回常議員会や当委員会と関わりのある諸委員会の報告を受け、議事に入った。

議事では当委員会の責任事項である宣教師の移動に関する件が取り扱われた。

長く日本で働かれたドイツMBKミッションのG・シェーア宣教師の退任、北米関係では二〇年間の働きを終えたヘイスティング夫妻の退任、及び新任、任地変更、任期延長、本国活動等の宣教師人事が承認された。

今回の委員会で長い時間を割いて協議された事項が二つある。

一つは現在作成作業が進められている「宣教師内規」についてである。この中に受入れ宣教師の置かれている情況がわからないと理解しにくい条項があり、協議の結果新しい文言に変更案を確定した。

二つ目は、昨年一宣教師がリーダーとなって行った海外へのスタディーツアーで重大な事故が発生した件に関することである。

この場合当委員会や同宣教師の関係機関はどう責任をとるのか、また責任を負うために必要な諸宣教師との連絡・報告体制をどう構築するのか等について話し合った。これは今後さらに取組むべき課題である。

（木下宣世報）

消息

三宅君惠氏（隠退教師）

七月五日、逝去。九二歳。静岡県に生まれる。一九四二年日本聖教会聖書学校卒業後、蒲田東口教会に赴任。その後、五六年から二〇〇一年まで元住吉教会牧師として務め、隠退した。遺族は息の宣幸さん。

出口　力氏（六角橋教会牧師）

八月十一日、逝去。八二歳。神奈川県に生まれる。一九五五年東京神学大学大学院修了後、六角橋教会に赴任、同教会牧師として務めた。遺族は妻の光子さん。

事務局報

補教師登録

木戸健一（二〇〇八・七・七受允）

正教師登録

花城静子（二〇〇八・五・二五受按）

補教師転入

温井節子（二〇〇八・七・一五常議員会承認）

教師異動

愛知　辞（主）井上孝仁
高槻向山　辞（担）桑原重夫
鶴見橋　辞（主）渡邊聖一
田瀬　就（代）木下忠司
生駒　辞（担）加藤弘治
九州キリスト教社会福祉事業団　就（教）堤　健生
伊万里　辞（代）末瀬昌和
〃　就（兼主）福永秀光
赤池　就（代）長田圭子
愛知　就（代）大島純男
内灘　就（代）横井伸夫
鎌倉雪ノ下就（担）落合建仁
藤沢　就（担）上竹裕子
浜松　就（代）岩本二郎
羊之舎　就（主）外山志都子
なか　辞（担）田中牧子
船越　辞（代）北村慈郎
〃　就（主）田中牧子
松江古志原就（主）鎌野　真
角田　就（担）温井節子
倉敷水島　就（主）宇野　稔
岡山　就（主）井上孝仁
倉敷　就（担）大澤　香

教会所在地変更

川之江　愛媛県四国中央市川之江町八六九－一－一A
東中野　東京都中野区東中野三－八－六

教会通信先設定

新島　横浜市金沢区大川七－一〇－四一三　小橋方

教会通信先廃止

港南希望

DCE改姓

塩谷咲野加→佐々木咲野加

Title:sinpou4660.ec7 Page:4 Date: 2013/02/27 Wed 09:34:56

宣教師からの声

アジア学院での宣教

潘（バン）　炯旭（ヒュンウク）
（基督教大韓監理会からの派遣宣教師）

アジア学院は一九七三年に栃木県那須山麓に「主イエス・キリストの愛にもとづいて、アジアの農村地域社会の人々の向上と繁栄に献身する中堅指導者を養成し、公正で平和な社会の実現に寄与すること」を使命として設立された学校です。今年創立三六年を迎えます。毎年四月～十二月までの八ヶ月間、アジア・アフリカ（時に太平洋諸島、南米）のいわゆる途上国から牧師、神父、NGO職員、農業組合リーダー、女性グループのリーダー、教師など農村の人々の暮らしを改善するために働く草の根の農村指導者を招いて指導者養成を行っています。

私は韓国のメソジスト教会の牧師であり、アジア学院の一九八三年の卒業生であります。そして二〇〇四年九月からアジア学院で宣教師スタッフとして奉仕をしています。私はアジア学院を心から愛しています。私はここで神の道具として神の使命のために働くことを心から喜びと思っています。私はここアジア学院に宣教師として送られてきてからずっと、高い使命感に燃えています。ここでは日本国中から集まる若い学生さんと会うことができますし、働きながら、またコイノニア（食堂）で食事をしながら自分の思いをそのような学生さんたちと話し合うことができます。私は共同体生活の担当職員として、アジア学院の学生達がアジア学院の研修を終了し、将来それぞれの土地で農村指導者となっていくのを手助けすることが出来ます。アジア学院の学生達が良き指導者として変化を遂げていくと、私の心は喜びにあふれ、神様への感謝でいっぱいになります。これが私が宣教師と働く原動力となります。

また時々アジア学院に以前訪問したことがある若い人達から電話やE-mailを受けることがあります。それは洗礼を受けたという報告であったり、聖書を読み始めたといったことであったり、日曜日に礼拝に出席するようになったといったことであります。これは私が受け取ったE-mailの一つです。

「バン先生。私はアジア学院での生活とアジア学院コミュニティーをとても恋しく思っています。アジア学院での夏は私と私の友人にとって神様の力を感じる上でとても意義深いものでした。私達はアジア学院で起こったたくさんのいい出来事のお陰で友情を深めることができました。彼女が自分から進んで教会に行くと言っていることを信じられますか？　バンさん、チンへさんは彼女だけでなく私のクリスチャンの良きモデルです」。

私の妻チンへも神の使命を達成するためにアジア学院でボランティアとして働いています。彼女はアジア学院のコミュニティー一人ひとりの誕生日にケーキを焼いています。ある人は人生の中でこんな素晴らしいケーキを焼いてもらって祝ってもらったのは初めてだといってとても喜びます。そういった姿を見て私もとても嬉しくなります。

ところでアジア学院は今や世界中の農村指導者を招聘して研修を行っています。そのことを知って、なぜアジア学院という名前をアジア・アフリカ学院、あるいはアジア・アフリカ・太平洋学院にしないのかという質問が時々あります。実はこれには訳があります。アジア学院の設立には、第二次世界大戦で日本がアジア諸国に行った罪責に対する神への贖罪が込められています。日本が行った多くの残忍な行為への責の告白、謝罪、そしてその贖罪を行いとしてあらわしていくために、アジア学院は「アジア」という名前を学校名に刻んでいかなければならないのです。どうか皆さん、アジア学院のため、アジア学院の学生、卒業生、そして貧困にあえぐ人々のために働くアジア学院の使命のためにお祈り下さい。

（翻訳／荒川朋子）

2008.4.12　入学式の後

東京信徒会の方針決まる

日本宣教一五〇年を迎える 合言葉「感謝と奮起」

二〇〇八年七月二六日、銀座教会で行われた東京信徒会は熱気に包まれていた。

昨年来勉強会を通して準備してきた「日本伝道一五〇年」をどのように迎えるか、東京信徒会の方針を決定する時であった。映像「グラフで見る教団の姿」の最後に映し出された「感謝と奮起」、エンディングと同時に共感の拍手が湧き起った。

東京信徒会として、日本伝道一五〇年を記念する目的を次の言葉で表した。

「日本伝道一五〇年を迎えるに当り、この地に注がれた主のご恩寵とお導きに感謝し、更なる福音宣教の機会として、幅広い信徒が『贖罪と和解』の信仰に立って伝道に奮起する」。

一方、教団の実の姿をどう捉えたら良いのか、地に足の着いたところからスタートすべきであるとの思いから、手掛かりをこの映像に求めた。教団予決委員会の配慮によるものである。

映像は教団の実像を淡々と示すが、その中身は深刻に迫ってくるものであった。

グラフは語る。教団全教会の経常収入はこの八年間で五億七千万円の減、マイナス4.3%。これは、実はお金の問題よりも人の問題であると言う。人の問題とは現住陪餐会員の減少。その原因はどこにあるのか。それは受洗の低迷にあり、更に教団特有の超高齢構造が、同時に信徒の減少を促進していくと述べる。

超高齢構造とは、戦後二〇年間の受洗が現在までの受洗総数の63%を占めており、この世代交代が一巡するまで信徒減少は続くと分析する。つまり「受洗が召天に追いつかない」状況が到来しているのである。

全国一教会当りの年間平均受洗数は0.8人。向う一〇年間で中堅教区の一つが消える規模に達すると、危機を訴えている。

この時にあって、日本伝道一五〇年記念の年を迎えるのである。東京信徒会は、この教団の状況を厳粛に受け止め、またとない伝道のチャンスとして、「感謝と奮起」を合言葉に決意を共有したのである。

（鈴木功男報）

出版局ニュース

★九月の新刊から

『「新しい教会暦」による説教への手引き』日本キリスト教団出版局聖書日課編集委員会＝編・A5判・五四六〇円　救済史的基本構造を持つ四年サイクルの「教会暦」による黙想集。

『文学としての説教』加藤常昭・A5判・二九四〇円　バルト、植村正久、竹森満佐一らとの「対話」を通し新たな視点を投じる。

『日々の祈り』J・H・ジョエット・A6判・一五七五円〈愛蔵版〉二五二〇円

日本基督教団教会・伝道所各位

第39回「日本基督教団開拓伝道協議会のご案内」文中、以下の部分は事実と異なりますので各教会・伝道所におきましてはご訂正をお願いします。

報告（問題共有のために）

「三里塚教会問題を通して」　八木かおりさん（三里塚教会）

右文中、八木かおりさんの肩書き（三里塚教会）に関しては、日本基督教団三里塚教会の教師は川島正行教師であり、八木かおり氏は同教会の所属教師ではありません。

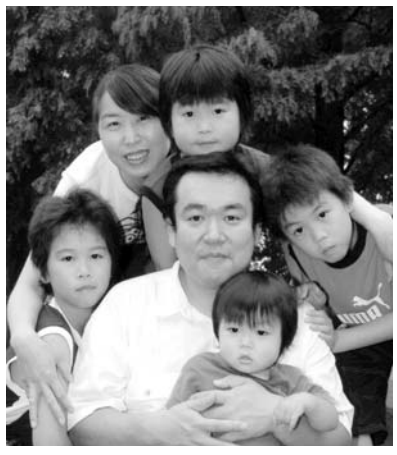
日本基督教団三里塚教会牧師は川島正行氏であることにつきましては一九七九年六月一一日付で日本基督教団総会議長後宮俊夫氏（当時）の証明があり、又、一九九三年一二月三日東京教区常置委員会の裁定によっても日本基督教団三里塚教会の牧師は川島正行氏であるとされており、一九九四年五月二四日？二五日の第五二回東京教区総会においても常置委員会裁定承認の教区総会決議がなされております。加えて千葉支区も日本基督教団三里塚教会の教師は川島正行氏であることを繰り返し確認しております。このような肩書きを用いることは全国の諸教会に誤解と混乱を生ぜしめる恐れがありますので、その肩書きを訂正あるいは抹消を開拓伝道協議会に求めておりましたがお聞き入れ戴けませんでしたので、教団新報に掲載を願ったものであります。

日本基督教団東京教区千葉支区　支区長・中村征一郎、副支区長・岸憲秀、書記・真島威

ひとときの人

石井　敏昭さん

愉しい教会



1972年7月1日 生。36歳。
坂戸いずみ教会役員

教会との出逢いは、キリスト教幼稚園に通う事から始まる。その後、埼玉県川越市に転居、小学二年生の時に友人に誘われて初雁教会の教会学校に通うようになる。高校一年生のイースターに、山岡磐牧師より洗礼に与った。一九九六年に千津子さんと結婚、十一歳を先頭に四人の男の子の父親。

子どもが六歳になると、その子と二人で広島へ旅行する事にしている。感受性が豊かな子どもの時に、平和記念資料館で戦争の記録やビデオ、ジオラマ等を一緒に見て平和について考える事を目的としている。教会行事や地域の催し物にも家族で積極的に参加する。それは、家族と一緒に面白くてワクワクする事を色々考えたいから。その時の家族の笑顔を楽しんでいる。勿論、日曜日には家族全員で礼拝に出席する。家族に一番大切な神様を知って貰いたいからだ。だから、結婚してからは、妻が受洗する事を神に祈った。その祈りは、御心として実現された事を喜んでいる。

現在、所属する坂戸いずみ教会（山岡創牧師）の前身は、初雁教会の出張集会所だった。集会所から伝道所へ、そして会堂建築を経て第二種教会へ、近年には宗教法人格を取得した。この激動の時にあって、少しも不安を抱いた事は無く、むしろ愉しさを覚えた。それは、神様の御心として実現したこと、と素直に喜ぶ。

教会に集うことは、良い事であり愉しい事と考えるから、子ども達がしっかりと教会に連なり、生涯イエス・キリストに従う事を願っている。教会役員として今考えている事は、教会学校の子ども達や青年達といった、教会を支える次の世代のフォローだ。その為にも他教会との交流を深めて学びたいという願いを持っている。だから、教会役員の交流がもっとあっても良いと考える。これからも、世代の近い山岡創牧師や他の教会役員と共に、キリストの体なる教会を形作る喜びに生かされたい。